

IZUTSUYA

IZUTSUYA

第128期

事業のご報告

2022年3月 1 日から
2023年2月28日まで

IZUTSUYA

IZUTSUYA



株式会社 井筒屋

井筒屋は 「奉仕こそ繁栄の基」

という奉仕の精神を日常の実践的心構えとし

「秩序のうえに立つ創造的繁栄」

をはかることを経営理念と定めています。

目 次

株主の皆様へ	2
事業の経過およびその成果	2
対処すべき課題	4
財産および損益の状況の推移(連結)	5
連結子会社	5
財産および損益の状況の推移(個別)	6
商品別売上高(個別)	6
財務諸表(連結)	7
(個別)	9
井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画	11
トピックス	12
CSR活動	13
井筒屋グループ百貨店 および主要なショップ	15
株式の状況	17
会社の概要	18
従業員の状況	18
取締役および執行役員、監査役	18
株主優待制度のご案内	19
株主メモ	20
ホームページのご案内	21

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、当社は、さる2月末日をもって第128期
(2022年3月1日から2023年2月28日まで)事業
年度を終了いたしましたので、事業の概況につきまし
て、ご報告申し上げます。



代表取締役 影山 英雄

事業の経過およびその成果

当期におけるわが国経済は、ウィズコロナの下で、
行動制限が徐々に緩和されるなど、景気は緩やかに持
ち直してまいりました。一方で、エネルギーや原材料
価格の高騰、物価上昇等、景気を下押しする懸念材料
も多く、先行き不透明なまま推移いたしました。

百貨店業界におきましては、新型コロナウイルス感
染症や物価上昇などによる個人消費へのマイナス影
響が懸念された一方、行動制限緩和などの外出機会
の増加により商況は前年に比べて改善し、復調の兆し
が見え始めておりますが、新型コロナウイルス感染症
拡大以前の水準には至っておりません。

こうした状況の中、当社グループにおきましては、従
来型の規模や量を追求する事業モデルを見直す契機
と捉え、量から質への新たな事業モデルへの道筋を
つける「井筒屋グループ中期3か年経営計画(2022
年度～2024年度)」を策定し、推進いたしております。
計画1年目となる当期は、店舗における百貨店らし

さを追求するべく、好調カテゴリーの強化を図るととも
に、百貨店の強みを活かした編集売場を構築することに
より、店舗価値の向上および売場の活性化に努めてまい
りました。併せて、効率的な店舗運営と効果的な販売促
進体制を維持することにより、収益力の維持・向上も図っ
てまいりました。

当社グループの業績につきましては、売上高は225億
73百万円(前年同期は売上高531億44百万円)、営業
利益は11億77百万円(前年同期は営業利益10億7百
万円)、経常利益は10億75百万円(前年同期は経常利
益10億47百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益
は10億19百万円(前年同期は親会社株主に帰属する
当期純利益11億71百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準等を適用した影響により、当
連結会計年度の売上高は324億20百万円、売上原価
は312億95百万円、販売費及び一般管理費は9億64
百万円それぞれ減少し、営業利益は1億60百万円、経常
利益及び税金等調整前当期純利益は2億36百万円それ
ぞれ減少しております。

また、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第
29号2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首か
ら適用しております。この結果、前連結会計年度と収益認
識の会計処理が異なるため、損益状況に関する説明にお
いて前期比(%)を記載せずに説明しております。

	井筒屋グループ	株式会社井筒屋
売 上 高	22,573百万円	18,836百万円
営 業 利 益	1,177百万円	1,178百万円
経 常 利 益	1,075百万円	983百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,019百万円	——
当期純利益	——	995百万円

【百貨店業】

当社グループの主要事業であります百貨店業におきましては、「百貨店らしさの追求」を基本方針とし、品揃えの強化と更なる販売サービスの向上に努めることで、コロナ禍におけるお客様の生活様式や商環境の変化への対応力強化に取り組んでまいりました。

本店におきましては、3月6日に福岡県のまん延防止等重点措置が解除されて以降、徐々に消費の回復傾向が見られ、引き続き高額品などの好調カテゴリーが牽引する中、百貨店らしさの追求、他商業施設との差別化を図るため、百貨店の強みである自主編集ゾーンの拡充や地域活性化などの取り組みを推し進めてまいりました。

自主編集ゾーンの拡充として、本館4階婦人服売場センターゾーンに、美と健康とファッションの融合にこだわったトータルビューティーセレクトショップ「B. more(ビー・モア)」を3月にオープンいたしました。また、4月には、本館5階紳士服売場センターゾーンに、素材やデザイン、製法など、流行に左右されない作り手の想いが込められた服や雑貨などを国内外のブランド問わずセレクトした「Stand up(スタンドアップ)」をオープンいたしました。

地階食品フロアでは、名古屋コーチンを始めとした諸国名産鶏を中心に、鶏肉惣菜を提供する「鶏三和」を9月にオープンいたしました。

本館8階レストラン街では、4月に地元食材にこだわったイタリアンレストラン「トラットリアジラソーレ」や9月には創作和食料理の店「銀茶寮」をオープンし、多くのお客様からご好評をいただいております。

また、催事・イベントに関しても徐々に開催制限が緩和され、賑わいを取り戻しつつあります。10月には「井筒屋アート2022」と題し、アートをテーマに全館フェアを初開催。有名作家の現代アート作品など多くの作品が全館を彩りました。11月には恒例の「北海道物産展」、1月には4年振りに「大江戸展」、2月には新規で「新潟・長野物産展」を開催、連日多くのお客様で賑わいました。今後もお客様に喜んでいただける百貨店ならではの取り組みを積極的に進めてまい

ります。

地元消費喚起への取り組みとして、プレミアム付き地域商品券事業への参画をはじめ、約3年ぶりに本新館間クロスロードにて「クロスロードマルシェ」をゴールデンウィークに合わせ開催。地元のグルメや雑貨など約30店舗が出店し、多くのお客様で賑わいました。今後も地元の繋がりを活かした店内催事の開催や地域イベントへの参画など、地域の活性化に積極的に取り組んでまいります。

サテライトショップにおきましては、8月8日にイオン戸畑内「戸畑ショップ」を閉店いたしました。長年のご愛顧に心より感謝申し上げます。

山口店におきましては、3月に1階の「KASHIYAMA」のオーダーメイド取り扱いアイテムを、レディースシューズに加え、新たにメンズ・ウィメンズのスーツ・セットアップまで拡充し、多様なニーズに対応できる売場を構築いたしました。

また、催事・イベントに関しては、山口市との包括提携契約の一環として、11月に山口市中心市街地活性化推進室とYCAM(山口情報芸術センター)が協働して進める「アートでつながるまちの活性化事業」の実証実験として「コログルあそびのひゃっかてんin山口井筒屋」を2階フロアに誘致いたしました。子どもたちが遊びを通じて自ら考え、創造できるようにデザインされた遊び場を提供させていただいたことで多くのファミリーが来場し、フロアの活性化に繋がっております。今後も地域連携を図りながら地元の魅力発信に努めてまいります。

一方、持続可能な社会の実現に向けた取り組みといたしましては、サステナビリティ基本方針のもと様々な活動を進めております。

脱炭素社会への取り組みといたしましては、食品ロス削減月間には、食べきれなかったお料理をお持ち帰りいただく環境省の「mottECO(モットエコ)」検証事業に参加。また、北九州市と『ゼロカーボンシティを目指す連携協定』を締結し、全国初の取り組みとなる、自治体と企業間でのEVシェアリングを開始いたしました。

店舗におきましては、持続可能な社会の実現に向けた情報発信の拠点として、常設売場「サステナベース」を本年3月のオープンに向け準備いたしておりますが、今後も関連商品の販売や体験型ワークショップの開催などにより、サステナブルライフを提案してまいります。

また、地域共創・社会貢献の観点から、昨年末大規模火災に見舞われた小倉北区旦過市場一帯の復興を支援するため、チャリティエコバッグを製作し、旦過市場と当社の双方で販売いたしました。収益は全額旦過市場の復興支援に寄付いたしました。

CSR・ESGに関する取り組みにつきましては、当社ホームページ「サステナビリティレポート」に掲載しております。

業績につきましては、売上高は225億35百万円(前年同期は売上高531億44百万円)、営業利益は12億1百万円(前年同期は営業利益12億円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は324億58百万円、営業利益は1億98百万円それぞれ減少しております。

【友の会事業】

友の会事業におきましては、売上高は37百万円(前年同期は株式会社井筒屋友の会が当社グループの百貨店に対して前払式の商品販売の取次を行っており、外部顧客に対する売上高はありません。)、営業利益は59百万円(前年同期は営業損失8百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高及び営業利益は37百万円それぞれ増加しております。

対処すべき課題

今後の経済環境につきましては、新型コロナウイルス感染症が感染症法上第5類へ引き下げられるなど、行動制限緩和による社会経済活動の正常化が期待されますものの、世界的な金融引締めによる海外経済の下振れリスクに加え、エネルギーや原材料価格の高騰、物価の上昇等、依然として先行き不透明な状況が続くものと思われ

このような状況の下、当社グループでは、「井筒屋グループ中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)」を推進いたしております。計画2年目にあたる本年につきまして、対処すべき課題として位置づけておりますのは、次のとおりであります。

井筒屋グループといたしましては、今後もお客様にお買い物を楽しんでいただけるよう、お客様と従業員の安全・安心に配慮しながら、地域に根ざした百貨店としての役割を果たしてまいります。

店舗におきましては、引き続き商品・サービスの両面で百貨店らしさを追求し、強みである編集力を活かした売場づくりを行うことで売場を活性化させながら、地域のお客様のニーズにお応えしてまいります。また、SNSを活用した販売促進や、社内システムを利用した業務効率化についても積極的に推進し、物価の高騰による経費増加に対応するべく、収益体質の強化を図ってまいります。

デジタル戦略につきましては、次年度の井筒屋アプリ導入に向け、お客様の利便性を向上し、効果的な営業施策を実施できる体制を構築してまいります。

併せて、当社グループの成長に向けた好循環を実現し、中長期的な企業価値向上に繋げるため、人材の確保、育成、労働環境の整備等を重要課題として捉え、人的資本投資に努めてまいります。

以上を当社グループの対処すべき課題とし、これまで取り組んでまいりました事業構造改革を定着・発展させ、将来にわたる安定的な収益基盤の確立と、財務体質の健全化に努めてまいります。

株主の皆様には倍旧のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2023年5月

代表取締役 影山 英雄

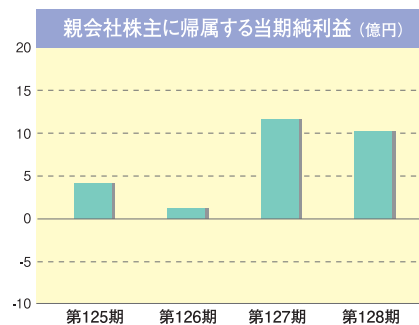
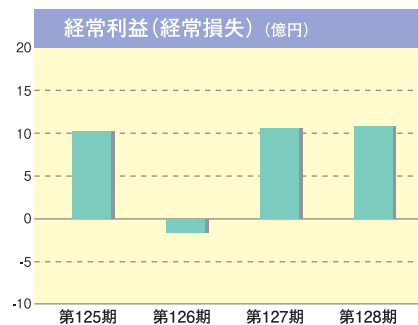
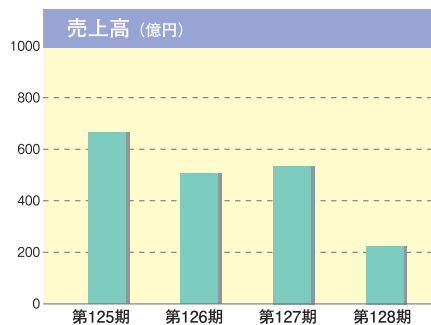
財産および損益の状況の推移(連結)

区 分	第125期 (2019年3月から 2020年2月まで)	第126期 (2020年3月から 2021年2月まで)	第127期 (2021年3月から 2022年2月まで)	第128期 (2022年3月から 2023年2月まで)
売 上 高 (百万円)	66,145	50,534	53,144	22,573
経常利益または経常損失(△) (百万円)	1,030	△ 165	1,047	1,075
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益 (百万円)	409	111	1,171	1,019
1株当たり当期純利益 (円)	37.75	9.73	102.21	88.95
総 資 産 (百万円)	50,339	47,987	47,300	46,343
純 資 産 (百万円)	8,113	8,257	9,029	10,111

※1株当たり当期純利益は、期中平均株式数から期中平均自己株式数を控除した株式数により算出しております。

※第125期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用しております。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第128期の期首から適用しており、当連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等になっております。



連結子会社 (2022年3月1日から2023年2月28日まで)

(株)山口井筒屋

(株)レストラン井筒屋

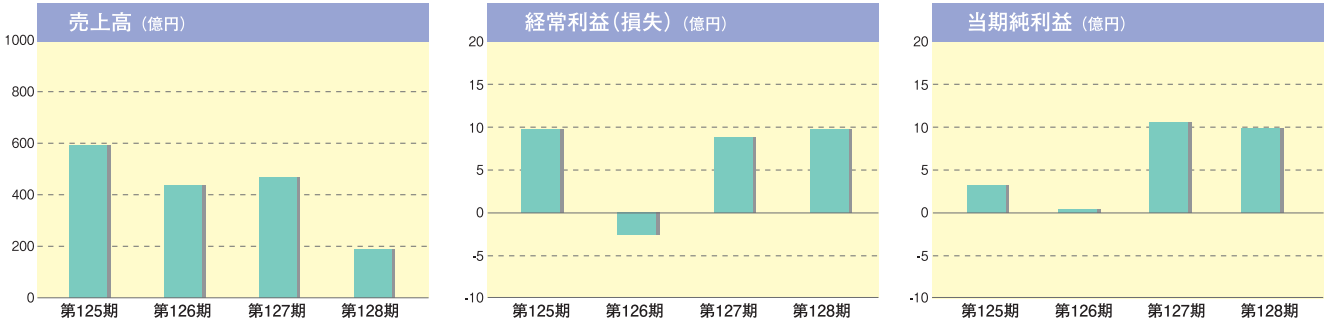
(株)井筒屋友の会

(株)井筒屋商事

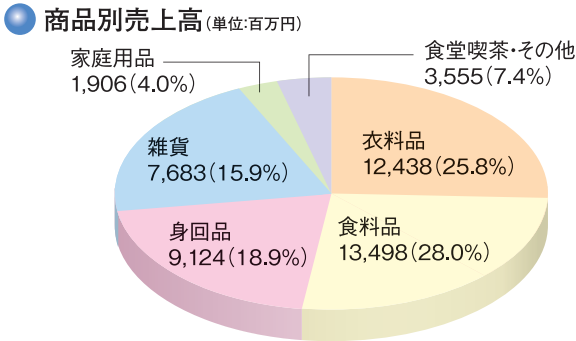
財産および損益の状況の推移(個別)

区 分	第125期 (2019年3月から 2020年2月まで)	第126期 (2020年3月から 2021年2月まで)	第127期 (2021年3月から 2022年2月まで)	第128期 (2022年3月から 2023年2月まで)
売上高 (百万円)	58,717	43,960	46,449	18,836
経常利益または 経常損失 (△) (百万円)	983	△ 259	889	983
当期純利益 (百万円)	319	22	1,006	995
1株当たり当期純利益 (円)	27.84	1.93	87.88	86.91
総 資 産 (百万円)	47,445	45,180	44,509	43,681
純 資 産 (百万円)	6,751	6,773	7,374	8,307

※1株当たり当期純利益は、期中平均株式数から期中平均自己株式数を控除した株式数により算出しております。
 ※第125期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用しております。
 ※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第128期の期首から適用しており、当事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等になっております。



商品別売上高(個別) (2022年3月1日から2023年2月28日まで)



財務諸表（連結）

● 連結貸借対照表 (単位:百万円)

資産の部	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)
流 動 資 産	7,958	7,534	7,952
現金及び預金	3,928	3,604	3,660
受取手形及び売掛金	1,511	1,546	1,797
商 品	2,041	1,989	2,058
貯 蔵 品	20	21	19
そ の 他	456	372	415
貸倒引当金	—	△ 0	△ 0
固 定 資 産	40,029	39,766	38,391
有 形 固 定 資 産	35,777	35,345	34,389
建物及び構築物	11,184	10,819	9,968
土 地	24,011	24,011	24,011
リ ー ス 資 産	132	60	67
建 設 仮 勘 定	11	1	0
そ の 他	438	451	340
無 形 固 定 資 産	245	195	213
リ ー ス 資 産	153	112	71
ソフトウェア仮勘定	—	—	69
そ の 他	91	83	71
投資その他の資産	4,006	4,225	3,788
投資有価証券	1,323	1,431	1,512
差入保証金	2,037	1,980	1,418
繰延税金資産	270	451	374
そ の 他	431	415	537
貸倒引当金	△ 56	△ 54	△ 54
資 産 合 計	47,987	47,300	46,343

負債の部	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)
流 動 負 債	26,897	26,378	25,971
支払手形及び買掛金	3,839	3,811	4,116
短 期 借 入 金	11,833	11,833	11,333
リ ー ス 債 務	131	73	59
未払法人税等	85	35	10
前 受 金	7,681	7,454	3,087
賞与引当金	55	56	58
ポイント金券引当金	149	127	—
設備関係支払手形	28	211	77
契 約 負 債	—	—	4,417
そ の 他	3,090	2,774	2,810
固 定 負 債	12,832	11,892	10,260
長 期 借 入 金	7,843	6,509	5,176
リ ー ス 債 務	153	99	79
再評価に係る繰延税金負債	2,874	3,278	3,278
商品券回収損失引当金	788	854	618
退職給付に係る負債	818	783	748
資産除去債務	279	261	248
預り保証金	74	76	81
そ の 他	—	30	30
負 債 合 計	39,730	38,270	36,231

純資産の部

株 主 資 本	2,458	3,629	4,724
資 本 金	10,532	100	100
資 本 剰 余 金	11,904	924	924
利 益 剰 余 金	△ 19,950	2,632	3,727
自 己 株 式	△ 27	△ 27	△ 27
その他の包括利益累計額	5,799	5,400	5,387
その他有価証券評価差額金	13	21	17
土地再評価差額金	5,766	5,362	5,362
退職給付に係る調整累計額	19	16	7
純 資 産 合 計	8,257	9,029	10,111
負債・純資産合計	47,987	47,300	46,343

● 連結損益計算書（単位：百万円）

	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)
売上高	50,534	53,144	22,573
売上原価	38,958	41,013	11,249
売上総利益	11,576	12,131	11,323
販売費及び一般管理費	11,563	10,846	10,146
営業利益	12	1,284	1,177
営業外収益	776	862	436
受取利息	0	0	0
受取賃貸料	65	65	65
協賛金収入	12	10	22
未回収商品券受入益	329	379	184
持分法による投資利益	57	111	17
助成金収入	198	184	86
その他の	113	111	59
営業外費用	954	1,100	537
支払利息	380	348	317
売上割引	325	381	—
商品券回収損失引当金繰入額	149	242	124
その他の	98	127	95
経常利益又は経常損失(△)	△165	1,047	1,075
特別利益	—	—	—
特別損失	187	5	—
税金等調整前当期純利益又は当期純損失(△)	△353	1,041	1,075
法人税、住民税及び事業税	51	51	10
法人税等調整額	△515	△180	45
当期純利益	111	1,171	1,019
親会社株主に帰属する当期純利益	111	1,171	1,019

● 連結キャッシュ・フロー計算書（単位：百万円）

	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	887	1,978	2,011
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 72	△ 833	13
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 987	△ 1,468	△ 1,968
IV 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 173	△ 323	56
V 現金及び現金同等物の期首残高	4,101	3,928	3,604
VI 現金及び現金同等物の期末残高	3,928	3,604	3,660

● 連結株主資本等変動計算書（単位：百万円）（2022年3月1日から2023年2月28日まで）

項 目	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	100	924	2,632	△27	3,629	21	5,362	16	5,400	9,029
会計方針の変更による累積的影響額			133		133					133
会計方針の変更を反映した当期首残高	100	924	2,765	△27	3,762	21	5,362	16	5,400	9,162
当期変動額										
剰余金の配当			△57		△57					△57
親会社株主に帰属する当期純利益			1,019		1,019					1,019
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						△4		△8	△13	△13
当期変動額合計	—	—	961	△0	961	△4	—	△8	△13	948
当期末残高	100	924	3,727	△27	4,724	17	5,362	7	5,387	10,111

財務諸表（個別）

● 貸借対照表（単位：百万円）

資産の部	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)
流動資産	7,125	6,701	7,108
現金及び預金	3,778	3,503	3,581
受取手形	7	7	5
売掛金	1,323	1,337	1,598
商品	1,639	1,552	1,590
貯蔵品	15	16	15
その他	360	284	316
貸倒引当金	—	△ 0	△ 0
固定資産	38,055	37,807	36,572
有形固定資産	35,602	35,199	34,273
建物	11,012	10,669	9,846
構築物	43	39	34
什器備品	391	415	313
土地	24,011	24,011	24,011
リース資産	132	60	67
建設仮勘定	11	1	0
無形固定資産	237	187	205
リース資産	153	112	71
電話加入権	35	35	35
ソフトウェア仮勘定	—	—	69
その他	48	39	27
投資その他の資産	2,216	2,420	2,093
投資有価証券	108	97	96
関係会社株式	81	81	81
長期貸付金	3,285	3,326	3,431
差入保証金	821	765	203
繰延税金資産	199	333	356
その他	358	342	460
貸倒引当金	△2,638	△2,525	△2,535
資産合計	45,180	44,509	43,681

負債の部	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)
流動負債	26,296	25,901	25,486
支払手形	38	28	28
買掛金	3,211	3,197	3,507
短期借入金	16,733	16,733	17,233
リース債務	131	73	59
未払法人税等	59	10	10
前受金	309	297	—
預り金	3,072	2,910	1,613
賞与引当金	48	48	50
ポイント金券引当金	129	110	—
設備関係支払手形	28	210	77
契約負債	—	—	593
その他	2,532	2,278	2,311
固定負債	12,111	11,233	9,887
長期借入金	7,240	6,006	4,772
リース債務	153	99	79
再評価に係る繰延税金負債	2,874	3,278	3,278
退職給付引当金	794	757	720
債務保証引当金	85	108	87
商品券回収損失引当金	637	644	618
資産除去債務	258	240	226
預り保証金	67	68	73
その他	—	30	30
負債合計	38,407	37,134	35,373
純資産の部			
株主資本	996	2,003	2,937
資本金	10,532	100	100
資本剰余金	11,904	924	924
資本準備金	11,904	924	924
利益剰余金	△21,412	1,006	1,940
利益準備金	1,127	—	—
その他利益剰余金	△22,539	1,006	1,940
繰越利益剰余金	△22,539	1,006	1,940
自己株式	△ 27	△ 27	△ 27
評価・換算差額等	5,776	5,371	5,370
その他有価証券評価差額金	9	9	8
土地再評価差額金	5,766	5,362	5,362
純資産合計	6,773	7,374	8,307
負債・純資産合計	45,180	44,509	43,681

● 損益計算書 (単位:百万円)

	第126期 (2021年2月期)	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)
売上高	43,960	46,449	18,836
売上原価	33,989	36,034	8,746
売上総利益	9,971	10,415	10,089
販売費及び一般管理費	9,804	9,065	8,911
営業利益	167	1,350	1,178
営業外収益	669	728	517
受取利息	48	49	53
貸倒引当金戻入益	—	90	—
債務保証引当金戻入益	15	—	6
協賛金収入	12	8	22
助成金収入	170	156	69
その他の収益	423	423	365
営業外費用	1,096	1,189	712
支払利息	597	568	473
その他の費用	498	621	239
経常利益又は経常損失(△)	△ 259	889	983
特別利益	—	—	—
特別損失	187	5	—
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△ 447	883	983
法人税、住民税及び事業税	13	10	10
法人税等調整額	△ 482	△ 133	△ 22
当期純利益	22	1,006	995

● 株主資本等変動計算書 (単位:百万円) (2022年3月1日から2023年2月28日まで)

項 目	株主資本						評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等 合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計						
				繰越利益 剰余金							
当 期 首 残 高	100	924	924	1,006	1,006	△27	2,003	9	5,362	5,371	7,374
会計方針の変更による累積的影響額				△4	△4		△4				△4
会計方針の変更を反映した当期首残高	100	924	924	1,002	1,002	△27	1,998	9	5,362	5,371	7,370
当 期 変 動 額											
剰 余 金 の 配 当				△57	△57		△57				△57
当 期 純 利 益				995	995		995				995
自 己 株 式 の 取 得						△0	△0				△0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								△0	—	△0	△0
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	938	938	△0	938	△0	—	△0	938
当 期 末 残 高	100	924	924	1,940	1,940	△27	2,937	8	5,362	5,370	8,307

井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)について

当社グループでは、「井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)」を策定いたしております。本計画につきましては、コロナ禍により加速・顕在化した環境変化を踏まえ、従来型の規模や量を追求する事業モデルを見直す契機と捉え、量から質への「新たな事業モデルへの道筋をつける中計」と位置づけ、中長期の戦略実現に向けた検討・準備と、グループ保有資産の更なる強化に努めてまいります。

1. 当社グループのビジョン

グループビジョン:「地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していく」

事業戦略 サステナビリティを基盤とした“質”の追求

当社グループに関わる全てのステークホルダー(顧客、取引先、従業員、株主)ならびに地域社会とのつながりの“質”を深化させ、地域共創基盤として持続可能な地域社会の発展に寄与してまいります。

営業戦略 リアルとデジタルの両面からお客様へ上質な人生を提案する

顧客情報を統合し諸施策に活用することで、店舗やネットショッピング等複数のチャネルを通じて顧客ニーズへ対応してまいります。

2. 戦略の方向性

短中期

●店舗における百貨店らしさの追求(競争優位性の確立・差別化)

自主編集運営ゾーンの刷新等による店舗価値の向上を図ってまいります。

●効率的な店舗運営と効果的な販売促進体制の維持(収益性の維持・向上)

SNS活用等効果的な宣伝経費運用により高収益構造の維持に努めてまいります。

中長期

●デジタルデバイスを基軸とした顧客単価向上(顧客接点の創造)

井筒屋アプリの導入により顧客統合基盤を構築し、効率的な営業施策を推進してまいります。

●優良顧客基盤×デジタルデバイスの活用(新たな収益基盤の確立)

将来的には、統合された顧客情報を活用し、顧客の求めるソリューションを提供してまいります。

3. 最終年度(2024年度)の数値目標 ※収益認識会計基準等適用後

連結業績	2023年2月期		2024年2月期	2025年2月期
	目標値(2022年度) 本中計1年目	実績(2022年度) 本中計1年目	目標値(2023年度) 本中計2年目	目標値(2024年度) 本中計3年目
売上高	228 億円	225 億円	226 億円	227 億円
営業利益	9 億円	11 億円	8 億円	8 億円
営業利益率	3.9 %	5.2 %	3.5 %	3.5 %
経常利益	7 億円	10 億円	6 億円	6 億円
経常利益率	3.1 %	4.8 %	2.7 %	2.6 %

トピックス

〈自主編集ショップ〉本館4階 婦人服売場(ビー・モア)



美と健康とファッションの融合にこだわったトータルビューティーセレクトショップです。日々をもっと楽しく美しく健康的に過ごすための厳選した商品を取り揃えております。



〈自主編集ショップ〉本館5階 紳士服売場(スタンドアップ)



素材やデザイン、製法など、流行に左右されない作り手の想いが込められた服や雑貨など国内外のブランドを問わずセレクトしております。



〈イベント〉「井筒屋アート2022」



アートをテーマに全館フェアを初開催。有名作家の現代アート作品など多くの作品が全館を彩りました。

〈催事〉「北海道物産展」



何度来ても楽しい物産展です。北海道の広大な大地と海の恵みをご賞味ください。

〈催事〉「大江戸展」



4年振りに開催いたしました。大江戸展の会場から現代に受け継がれた伝統の技と味をお届けします。

〈催事〉「新潟・長野物産展」



初開催の物産展です。信濃・越後の豊かな山・水・海の食文化と伝統工芸をご紹介します。

〈本館地階〉鶏三和



名古屋コーチンを始めとした諸国名産鶏を中心に、鶏肉総菜を提供いたします。

〈本館8階〉銀茶寮



軽やかで口当たりの良い天ぷらをメインにコース料理でお届けいたします。旬の美味しいものを日本料理、天ぷらと心を込めて料理いたします。

〈チャリティーエコバッグ〉



巨過市場の火災に伴う復旧・復興に向け、被災者支援と持続可能な社会を実現するためにエコバッグを制作いたしました。北九州市にゆかりのある、リリー・フランキー氏ご協力のもと「おでんくん」を使用させていただき、地域共創に役立てました。

〈山口店〉コロガルあそびのひゃっかてん山口井筒屋



山口市との包括提携契約の一環として、山口市中心市街地活性化推進室とYCAMP（山口情報芸術センター）が協働して進める「アートでつなぐまちの活性化事業」の実証実験として「コロガルあそびのひゃっかてん山口井筒屋」を2階フロアに誘致いたしました。

CSR活動基本方針

井筒屋グループは、「秩序の上に立つ創造的繁栄」を経営理念とし、CSR活動を経営の重要課題として位置づけ、地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していくことを目指しています。私たちはESGの視点から、E：環境保全に関する活動、S：地域社会での貢献活動、G：ガバナンスの強化をそれぞれ積極的に推進し、将来にわたって持続的に取り組み、企業価値の向上に努めます。

CSR活動を推進するにあたり、下記のとおりサステナビリティ基本方針ならびにESGそれぞれの方向性や重点課題を定め、「地域共創」により持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。

サステナビリティ基本方針

私たちは、店舗周辺の河川や公園などの公共空間を活かした「環境共生型百貨店」を、地域と共に創出してまいります。この「地域共創」により、かかわりのあるすべての人々の豊かな未来と持続可能な社会の実現に向け、役割を果たしてまいります。

井筒屋グループESGについて

サステナビリティ重点課題（ESG×SDGs）

ESG視点	方向性	重点課題	SDGs(目標)
E(環境)	環境保全と経済成長の両立による 企業価値の向上と事業基盤の強化	脱炭素社会の実現	  
		サステナブルライフの推進	  
		サプライチェーン・マネジメント	  
S(社会)	地域社会との共創によるまちづくりへの参画	地域活性化・賑わい創出	 
		ワークライフバランスの充実	 
	働きやすい職場環境の整備や 多様な人材が活躍できる機会の創出	ダイバーシティ&インクルージョン	 
G(ガバナンス)	コーポレートガバナンスの遵守	ガバナンス体制構築とリスクマネジメント	

○ 井筒屋サステナブルアクション ～ I Think. ～

サステナブルなモノやコトを通じてSDGsや地球環境について、持続可能な社会の実現と、豊かな未来を創造するために、井筒屋「I」も私たち一人ひとり「I」も、みんなで考え、行動し、積み重ねてまいります。



○ 井筒屋グループとして取り組んでいる主なサステナブル活動をご紹介します。

サステナブルな商品やライフスタイルの提案

サステナブルな天然・リサイクル素材を利用し、環境に配慮した商品や、フェアトレード、エシカル消費などライフスタイルの提案を実施しております。

また、持続可能な社会の実現に向けた情報発信の拠点として、常設売場「サステナベース」を2023年3月にオープン。今後も関連商品の販売やワークショップの開催などにより、お客様へサステナブルライフを提案してまいります。



食品ロス削減月間に「mottECO事業」を実施

日本百貨店協会の主催により、飲食店の食べ残しを持ち帰ることから始める食品ロス削減「mottECO(モtteco)事業」を小倉店のレストラン6店舗で実証し、廃棄物の削減に取り組みしました。



森林保全クリスマスチャリティーオーナメントの販売

産学官連携で取り組む「京築のヒノキと暮らすプロジェクト」と協働で制作した井筒屋オリジナルのクリスマスオーナメントを販売。併せて、未来を担う子どもたちが木と触れ合う時間を共有し、森を守る大切さを学ぶワークショップを開催しました。収益の一部を活用し、森林保全のために植樹会を行っています。



【旦過市場×井筒屋】チャリティーエコバッグの制作販売

旦過市場の火災に伴う復興に向けて、被災者支援のためにエコバッグを制作。地元出身の俳優リーフランキー氏のご協力により企画し、師走商戦に合わせ販売。なお、収益は、旦過市場復旧対策会議に寄付し、地域共創に役立てました。



地域活性化・にぎわい創出イベントの開催

コロナ禍で3年ぶりとなる「クロスロードマルシェ」及び「小倉クリスマスマーケット」を再開し、公共空間を活用することで、賑わいの拠点づくりを行いました。また、近隣と連携することでスケールメリットを活かした会場となり、多くのお客様が訪れました。



当社のCSR活動につきましては、当社のHPの「企業情報CSR」に掲載しております。

井筒屋ホームページ

<https://corp.izutsuya.co.jp/sustainability-report/>

スマートフォンの
方はこちらから



井筒屋グループ百貨店および主要なショップ



本 店 〒802-8511
北九州市小倉北区船場町1番1号
電話(093)522-3111



山 口 店 〒753-0086
山口県山口市中市町3番3号
電話(083)902-1111



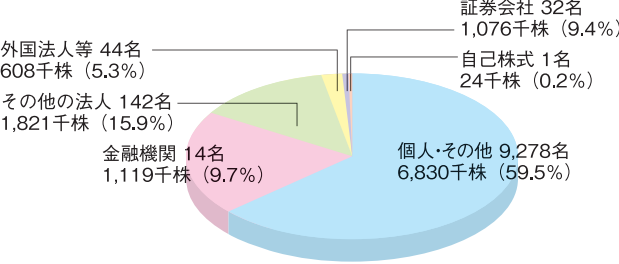
- 北九州空港店 北九州市小倉南区空港北町6番
〒800-0306 電話 (093) 475-0102
- 守恒ショップ 北九州市小倉南区守恒一丁目11番25号
〒802-0972 電話 (093) 963-4370
- 下曾根駅前ショップ 北九州市小倉南区下曾根新町10番1号
〒800-0221 電話 (093) 475-5671
- 二島ショップ 北九州市若松区二島一丁目3番1号
〒808-0103 電話 (093) 701-0655
- 高須ショップ 北九州市若松区高須南二丁目2番1号
〒808-0145 電話 (093) 741-3286
- イオンタウン黒崎ショップ 北九州市八幡西区西曲里町3番1号
〒806-0036 電話 (093) 643-5111
- 三ヶ森ショップ 北九州市八幡西区三ヶ森三丁目9番1号
〒807-0843 電話 (093) 613-3001
- 中間ショップ 福岡県中間市蓮花寺一丁目2番
〒809-0014 電話 (093) 246-2000
- 直方ショップ 福岡県直方市知古756
〒822-0022 電話 (0949) 24-0311
- イオンモール直方ショップ 福岡県直方市湯野原二丁目1番1号
〒822-0008 電話 (0949) 28-7390
- 田川ショップ 福岡県田川市日の出町1番3号
〒825-0012 電話 (0947) 45-2785
- 苅田ショップ 福岡県京都郡苅田町殿川町1番7号
〒800-0312 電話 (093) 436-2100

- ゆめタウン行橋ショップ 福岡県行橋市西宮市三丁目8番1号
〒824-0031 電話 (0930) 28-8273
- 飯塚ショップ 福岡県飯塚市枝国長浦666番48号
〒820-0081 電話 (0948) 22-3130
- 宗像ショップ 福岡県宗像市くりえいと一丁目5番1号
〒811-4184 電話 (0940) 35-6132
- 中津ショップ 大分県中津市蛭子町三丁目99番地
〒871-0065 電話 (0979) 23-8555
- 周南ショップ 山口県周南市銀南街33番地
〒745-0031 電話 (0834) 33-1228
- 宇部ショップ 山口県宇部市黒石北三丁目4番1号
〒759-0213 電話 (0836) 39-8887

● 株式の状況

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	11,480,495株
一単元の株式の数	100株
株 主 数	9,511名

● 株式の分布状況(所有者別)



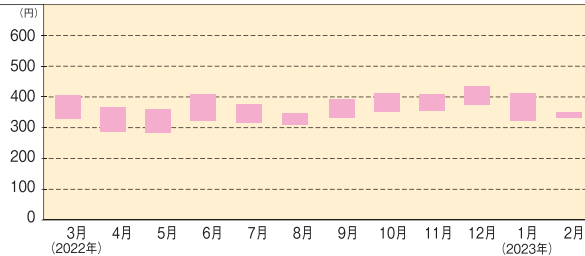
● 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	持株比率
井 筒 屋 共 栄 持 株 会	1,126 千株	9.8 %
西日本鉄道株式会社	1,052	9.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	532	4.6
野 村 證 券 株 式 会 社	497	4.3
上田八木短資株式会社	245	2.1
平 松 裕 将	178	1.6
株 式 会 社 S B I 証 券	156	1.4
株 式 会 社 北 九 州 銀 行	139	1.2
吉 田 知 広	134	1.2
井 筒 屋 社 員 持 株 会	127	1.1
合 計	4,190	36.6

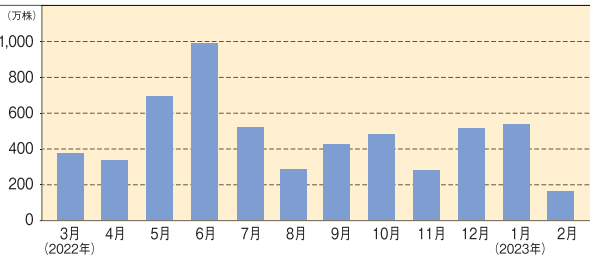
(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

● 株価および出来高の推移

株 価



出来高



会社の概要 (2023年2月28日現在)

□ 設 立 1935年7月30日
□ 開 店 1936年10月6日
□ 資 本 金 100,000,000円

□ 事業内容 百貨店事業
□ 本 社 北九州市小倉北区船場町1番1号
電話 (093) 522-3111

従業員の状況 (2023年2月28日現在)

□ 井筒屋グループの従業員の状況

事業の種類別の区分	従業員の数	前期末増減
百貨店業	726名	27名減
友の会事業	1名	増減なし

□ 株式会社井筒屋の従業員の状況

区 分	従業員の数	前期末増減	平均年齢	平均勤続年数
男 性	221名	14名減	53.6歳	18.8年
女 性	386名	25名減	47.3歳	15.7年
合計または平均	607名	39名減	49.5歳	16.8年

取締役および執行役員、監査役 (2023年5月25日現在)

● 取締役および執行役員

代表取締役
社長執行役員 影 山 英 雄
取 締 役
常務執行役員 吉 田 功
取 締 役
常務執行役員 松 本 圭
取 締 役 安田堅太郎 社外 独立
取 締 役 窪 田 弥 生 社外 独立
執 行 役 員 大 森 俊 介
執 行 役 員 高 橋 昭 一
執 行 役 員 磯 野 俊 也

● 監査役

常勤監査役 細 迫 有 文
監 査 役 成 清 雄 一 社外 独立
監 査 役 梅 田 久 和
監 査 役 嘉 藤 晃 玉 社外

株式の状況／会社の概要／従業員の状況／取締役および執行役員、監査役

I. 『株主お買物優待券』について

1. ご優待券の発行基準

2月末日および8月末日現在、100株以上ご所有の株主様に対し、次のとおりお買物優待券を発行いたします。

100株以上	300株未満	10枚
300株以上	500株未満	20枚
500株以上	1,000株未満	30枚
1,000株以上		50枚

2. 取扱店舗

本店、山口店、井筒屋サテライトショップ各店

3. 有効期限(今回発行分)

2023年11月30日まで有効

4. ご優待方法

①上記各店舗で現金による本体価格2,000円以上のお買物(適用除外品目および売場を除く)1回につき、消費税を含むお買物代金の7%を割引いたします(ただし、割引額の1円未満は切り捨て)。

なお、お支払いにつきましては現金、井筒屋商品券(井筒屋・井筒屋グループ発行の商品券)、井筒屋ギフトカードのほか、全国百貨店共通商品券、百貨店ギフトカードに限りです。

②1回のお買物につき優待券1枚のご使用となります。

③適用除外品目および売場

- 商品券、各種ギフトカード・進物券
- たばこ、はがき、切手、印紙、クオカード、図書カード、前売券、各種回数券
- 金・白金の地金、住宅(含関連工事)、保険料、駐車料金、荷具送料
- ルイ・ヴィトン、ロレックス、ティファニー、アーバンリサーチ、ビューティアンドユースユナイテッドアローズ、その他一部のブランドおよびショップ
- 家電売場、旅行センター、ブックセンタークエスト、モンペル、カフェコムサ、ボーコンセプト
- 代金引換配送、掛売入金および各種優待券との併用使用(友の会券・カード、ウィズカードとの併用はできません)
- 正札よりの割引商品
- その他特に指定したもの

なお、適用除外品目および売場につきましては、予告なく変更させていただきます場合もございますので、予めご了承ください。

※詳しくは店頭にて係員にお尋ねください。

5. お願い

ご利用の際には株主様のご署名をお願いいたします。

II. インターネットショッピング『井筒屋オンライン』でのお買物優待割引について

1. ご優待内容

①ご優待の基準

2月末日および8月末日現在、100株以上ご所有の株主様に対し一律。

②ご優待方法

インターネットショッピング『井筒屋オンライン』でのお買物(適用除外品目および売場を除く)1回につき、消費税を除くお買物代金の7%を割引いたします(ただし、割引額の1円未満は切り捨て)。

なお、お支払いにつきましては、クレジットカード1回払いでのご決済のみとなります。

2. 有効期限(今回対象分)

2023年11月30日まで有効

※有効期限までは何度でもお買物にご利用いただけます。

3. ご利用方法

インターネットショッピング『井筒屋オンライン』(<http://www.izutsuya-online.co.jp/>)にアクセスすることでご利用いただけます。詳細につきましては本書同封の「株主ご優待制度のご案内」をご参照ください。

4. 適用除外品目および売場

前記I.『株主お買物優待券』についての4.ご優待方法の③に記載の適用除外品目および売場に同じです。

5. ご注意

- (1) 株主様ご本人の個人クレジットカード名義でのお買物に限らせていただきます。
- (2) 株主お買物優待券のご提示やご郵送の必要はございません。
- (3) 株主お買物優待券の他、各種特典割引との併用はできません。
- (4) 送料につきましては、割引の対象となりませんのでご了承ください。

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月に開催
剰余金の配当受領株主確定日	2月末日 その他取締役会決議により定める日
基準日	定時株主総会関係 2月末日 その他あらかじめ公告して定める日
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 ※貸借対照表および損益計算書につきましては、以下のアドレスに掲載しております。 http://www.izutsuya.co.jp/
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

郵送物送付先・電話お問合せ先

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324（土・日・祝日を除く9:00～17:00）
各種手続 お取扱店 （住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等）		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。
		みずほ信託銀行 本店および全国各支店（※） （※）トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行（※）およびみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります） （※）トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご 注 意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

上場証券取引所	東京・福岡
証券コード	8260
ホームページアドレス	http://www.izutsuya.co.jp/

ホームページのご案内

ホームページアドレス <http://www.izutsuya.co.jp/>

■井筒屋 TOP PAGE



井筒屋ホームページは、毎週の催物やサービス・施設のご案内から企業・投資家情報まで掲載しております。手軽にご家庭でもショッピングをお楽しみいただけます。

■企業・投資家情報

決算情報、株式の状況、ニュースリリースなど投資家の皆様への情報を掲載しています。



■井筒屋各店舗の最新情報

お買得情報やイベント情報、新着商品のご案内など、毎週お得な情報を満載してお届けしています。



■オンラインショッピング

ギフト商品や話題の商品を自宅から楽々、ネットショッピングできるオンラインモールです。



・WEB会員サービス



・WEBチラシ



※当画面情報は本紙作成時点のものです。

memo

Handwriting practice area with horizontal dotted lines.



IZUTSUYA